

# びとう和広 市政報告

発行日：2020年9月3日

発行者：三田市議会議員  
びとう 和広

## 人口急減少、三田の魅力を活かさせ！

びとう市議は、三田市議会定例会令和2年9月議会の本会議において、市の考えを確認し、自策を提案しました。

9月議会の一般質問は、10人の議員が行ないました。  
今回は個人質問(40分)で、びとうは一番に質問しました。

三田市の人口は7月末で11万1千人と昨年から1千人以上減少しました。コロナ禍の中、策定中の第5次総合計画に大きな見直しを求めるとともに、自然やICT環境を活かした企業・若者誘致を質問・提案しました。

1. 第5次総合計画策定への留意点
2. 市民とともに創るまちづくり



びとう議員の一般質問(壇上にて)

(問):びとうの質問 (答):市長や市当局の答弁 (㊦):びとうの考え

### 1. 第5次総合計画策定への留意点

#### (1) 総合計画策定に反映すべき項目:

(問) 新しい社会構造を受けて、計画策定に反映すべき項目は？

(答) 策定にあたり新たな3つの目標  
①策定にできるだけ多くの市民参加  
②市長が責任を持って実行するもの  
③まちづくりを対外的にPRできるもの  
人口減少は避けられない。住みやすい、働きやすいことが重要で、ICT技術を活用したスマートシティを目指す。  
コロナ禍は、社会構造の変化も生じているが、その影響は十分に把握できていないのが現状であり、有識者の意見や、秋に実施予定の「コロナに負けないアイデアワークショップ」の成果などを踏まえて適切に対応していく。

#### (2) 人口目標の設定と達成への方針:

(問) 7月末人口は111,141人、1年で-1,138人1%減。5年前に対し、3千人増の目標人口が3千人減、設定と方針に問題はなかったか？

(答) 人口減少速度を緩和するか、バランスの良い年齢構成を実現するか、が人口施策の要諦。具体的な目標人口は、目指すまちのサイズを示すが、より重要なのは、「住みやすい働きやすいまち」が実現できているか。  
市民に理解されやすい人口予測し、厳しい人口予測になるが、人口減少緩和とスマートシティへの取り組みを進めることで、計画づくりを多くの市民と共に作り上げるプロセスを大切にしたい。

#### (3) 「ひと・まち・自然が輝く三田」の自然:

(問) 放置は自然ではない。緑豊かな三田のために、人が関わるべきでは？

(答) 良好な自然や景観を保全するには、人が関わる必要がある。自然環境や豊かな景観は三田市の財産であり誇りであるが人口減少や少子高齢化によりそれを担う人が減少しつつあるのが実態でもある。  
一方、行政だけで対応するにも限界があり現在草刈りや街路樹などの自然や景観の保全のあり方について庁内に濱田副市長をヘッドとするプロジェクトチームを発足させ検討に着手している。

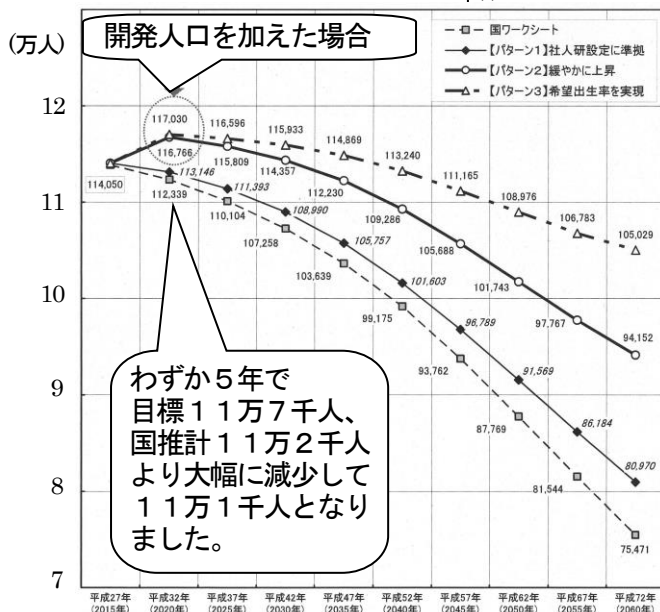
(㊦) 現在、中学校や幼稚園の再編計画が出されています。こどもたちのためには、一定規模を求める計画は否定しません。でも、学校再編問題も、まずは人口問題の将来的なビジョンがあるべきだと考えます。

例えば、つつじが丘地区は人口減少を前提に考えられていますが、本来の人口誘致政策が働いていれば、今回のような再編問題にはならなかったはずで。

また、地域から中学校がなくなれば、将来の人口問題にも影響があるかもしれません。地域から病院銀行など生活に直結した機能がなくなれば住みにくくなる、結局、人口減少へとつながるのではないのでしょうか。

まずは、人口問題・対策を講ずることが先決ではないのでしょうか。

人口問題は、すべての計画の大前提です。3千人増の計画が、3千人減では、その先の計画すべてが見直しを求められるべきと考えます。



この人口計画は2015年10月を基準に、5年ごと2060年までの人口推計です。

←開発人口を加味し、希望出生率実現の人口研究所計算式

←開発人口を加味した人口研究所計算式 (目標人口)

←何もしない場合の人口研究所計算式

←何もしない場合の国計算式

わずか5年で目標11万7千人、国推計11万2千人より大幅に減少して11万1千人となりました。

# 1. 第5次総合計画策定への留意点(つづき)

## (4) 若者が住みたいまち:

**(問)** 25歳前後で三田を去る若者が多い。就職や結婚で三田を去る若者に対し、子育て世帯を誘致することが、「子育てするならゼッタイ三田」の理念だった。ゼッタイは難しいとして、切れ目のない子育て支援を進めてきた。若者の定住課題は、交通・賑わい・住居・安心安全など。三田に転入するメリットをどう考えるのか？

**(答)** バランスの良い人口構成のためには、金銭的なサービス政策により、自治体同士が人口を奪い合うだけではなく、国や県が大都市への集中から分散へと人口対策を転換するとともに、三田市が真に若者にとって魅力のある、学びやすい働きやすい住みやすい子育てしやすいまちづくりに、危機感を持って取り組む必要がある。

10年後に、若者・子育て世代を三田に呼び込み、定住につなげるには、コロナ禍による社会や価値観の変化も踏まえ、三田市がリモートワークや余暇の過ごし方を含め、多様で豊かなライフスタイルに適応できるまちづくりを進めていくことが必要である。

先日発売された雑誌にコロナ時代の移住先ランキングに、三田市が近畿圏で3位に入り、可能性は大きいと考える。人口が減少しても、まちづくりに積極的に関わる活動人口を増加させ、まちの活力につなげていくことや多くの転入が見込めない中では二拠点居住、多拠点居住といった新しいライフスタイルも取り込み、関係人口として獲得していくことも必要である。移住・定住政策をはじめとする人口施策は、こうした視点から検討し総合計画に反映させていく。

## (5) 先進的なICT環境が拓く未来:

**(問)** 積極的・効果的に行政のデジタル化を図り、IoTやAIなど先進的に活用し地域の課題や都市機能の向上・都市サービスの効率化を図る「スマートシティ」を総合計画の柱の一つにしては？

**(答)** 内閣府が6月に行った調査で、今回の感染症の影響でテレワークを経験した人は全国で34.6%と一気に拡大し、社会経済活動を維持する手段として重要な役割を果たした。

テレワークは、平時は就業者にとって多様な働き方の実現やワークライフバランスの観点から、企業にとっては人材の確保や固定費の削減や時間の効率化などの観点から、今後有望な手段として期待されている。

サテライトオフィス整備は市の魅力をさらにアップさせ、定住・流入促進に有効なツールとなり得るものであることから市民センター等公共施設の整備について、現在の利用状況、テレワークに必要な通信環境、運営方法等について、実施に向け検討中。

今後、ウイズコロナ、アフターコロナの時代に対応し、「人口減少下においても住みやすい・働きやすい三田」を実現するため、スマートデバイスやIoT機器等から得られるデータ、先進技術を活用することにより、地域交通の確保や健康・医療の体制、働く場所・雇用の確保への対応などの様々な課題の解決とサービスの効率化・高度化を図る「スマートシティの実現」に向けた取り組みを、この総合計画の中で明確に示す。

# 2. 市民とともに創るまちづくり

## (1) 自然公園の整備と活用:

**(問)** ゆりのき台とけやき台の間の平谷川緑地を、河川敷公園にしてはどうか？

あかしあ台小から三田ホテルまでは、よく管理され、利用者も多いが、その先の下流は、5年以上刈り込みがなく、樹々が伸び放題で、安全面にも問題がある。毎年遊歩道の両側2メートルを刈り込むが、あまり活用されていない

また、子どもたちは近くの公園に入りきらず路上で遊ぶ子が多く、身近な公園として日頃の運動や遊び場とすることで安心して思いっきり遊べる。

毎年の保守作業も削減できる。



樹木が生い茂った平谷川緑地 (ゆりのき台)

**(答)** 平谷川緑地は明るい開放感を演出し、安全安心で身近な水辺空間として、ゆりのき台住宅側の法面も、夏休み前など適切な時期を選んで河川敷と合わせて除草する。また、案内板や遊歩道への道標を設置し、平谷川緑地に近づきやすくなるよう誘導を図る。

平谷川緑地が子どもたちの遊び場だけでなく、大人も含めた地域の皆様が水辺で自然と触れ合える憩いの場となるよう努めていく。

**(問)** ゆりのき台5丁目に平谷川緑地に降りていける立派な道路が封鎖されている。活用はできないか。

**(答)** 平谷川緑地の周辺住民の要望もあり、現段階では開放はできない。



封鎖された遊歩道に降りる道路 (ゆりのき台)

## (2) 市民協力による住宅周辺の雑草や植栽の管理:

**(問)** 市民の方から、管理をしたいと手を挙げていただく制度はどうか？

**(答)** 市道の除草等は、幹線道路、区画道路、ポケットパークなどがある。

幹線道路は交通安全確保の観点から市が実施するが、比較的安全な区画道路などは、地域の協力によりクリーンデーや地域活動などを利用した道路の除草や美化活動をしていただいている。

地域活動に市から燃料や軍手ゴミ袋等の必要な資材を支給しているが、申し出る団体は少なく、市民への周知が十分ではないと考えられる。資材の提供等に、窓口や電話で直接お知らせするとともに、ホームページや市広報誌による周知徹底を図り、積極的で意欲のある市民の取り組みを促していきたい。

市民誰もがもっと手軽に参加できるよう、従来の管理協定に変えて届出制度に変更するなど、手続きの簡素化を検討する。また市民の良好な管理事例をホームページ等で紹介する。管理対象のポケットパークの候補箇所を公募するなど、市民の意欲を喚起し、参加をいっそう促進する取り組みも進めていく。

<自宅>三田市西山 2-11-13  
Tel : 079-562-8653、  
Fax : 079-562-0730  
<mail>bit@venus.dti.ne.jp  
<ホームページ>  
<http://www.bitokazuhiro.com>



三田市議会議員  
びとう和広

